

地域活性化を目指して「幸せ」を探究するプロジェクト。幸せそのものの多様性を他学年や地域に還元し、幸せの輪を安居地区全体に広げていく。本校が大切にしている「振り返り」の探究の学びのサイクルをもとに、総合的な深い学びを追究し、多くの人に幸せと笑顔を届ける。

①郷土料理コラボメニュー作成

安居地区の郷土料理の理解を深め、あわら市の福地鶏畜産家とのコラボメニューを開発し文化祭で販売した。安居の敬老会では「ほたるプリン」を振る舞い大好評であった。郷土料理とコラボメニューのレシピ本を作成した。



コラボメニューの販売

②ビオトープ生き物図鑑作成

公民館との未更毛川生き物調査に実施した。夏と秋に2回ビオトープの生き物調査を行い昆虫や植物をまとめ、「ビオトープいきものデジタル図鑑」を作成した。地域の子どもが自然学習に役立てられるように工夫した。



夏の生き物調査

③おっさまのお渡し行灯プロジェクト

昨年度の3年生が企画したプロジェクトをバージョンアップさせた。新たに増やした10個の行灯に、地域の夏祭「轟祭」で、家族や友達への感謝メッセージを書いてもらった。参加者は行灯に照らされた家族や友人からのメッセージを読んで心を温めた。



神社の階段に行灯設置

④轟祭を盛り上げよう！

生徒が地域が開催する轟祭実行委員会に参加しスタッフ企画を初プレゼンした。地域との協働で実現し大きな賑わいを見せた。また、生徒全員が夜に行われる民謡教室に主体的に参加し続け、祭では生徒が中心となって参加者全体に民謡の輪を広げた。



大きな輪を広げた民謡

(様式1)

令和7年度「ふるさとの学び特別賞」応募票

学校名 福井市安居中学校

1. テーマとアピールポイント

テーマ **幸せの方程式 ～幸せの輪プロジェクト～**

アピールポイント

ふるさと福井の魅力の再発見、活性化を目指すプロジェクト学習を通して、「私たちはどんなときに幸せを感じるのか」を探究した。「地域のお悩み相談会」で明らかになった課題から、「安居の自然保護」「安居の食文化の継承」「伝統行事の活性化」という3つのテーマを設定した。地域社会とともに地域を見つめ、生徒一人ひとりが「わたしの幸せ」を追究することで、自分たちだけではなく地域の人々にも幸せと笑顔を届けることができた。さらに本校の研究で実践しているAARサイクルを生徒自身が活用し、振り返りを繰り返し行うことで、多様な他者と協働しながら生涯にわたって主体的に学び続けるための深い学びを形成することにつながった。

2. 活動内容

(1) 対象 第3学年26名(男子15名、女子11名)

(2) 取組内容

「地域のお悩み相談会」を開催し、安居地区を支える活動を行っている方々を招き、地域の課題について議論した。そこで共有された課題を解決するため、3つのチームに分かれてプロジェクトを始動した。

- ・安居の郷土料理の伝統を継承し、認知度を高めることを目的とした「食チーム」
- ・安居の自然の魅力を引き出し、PRすることを目的とした「自然チーム」
- ・県無形文化財「オシッサマのお渡し」を盛り上げることを目的とした「オシッサマチーム」

さらに、学年全体で地域の夏祭り「轟祭」を盛り上げるため、新たに実行委員会を立ち上げ、同時進行で活動した。

<食チームプロジェクト>

「安居の里おもてなし塾」の協力を得て、「郷土料理を学ぶ会」を企画し、作り方やその成り立ちについて理解を深めた。さらに、あわら市の福地鶏畜産家である「黒川産業(有)」の協力を得て、郷土料理の良さを活かした福地鶏とのコラボメニューを試行錯誤しながら開発した。完成した「福地鶏の純鶏そぼろあぶらげ飯」や「ほたるプリン」は、安居の郷土料理「ごっと味噌」とともに、安居中学校の文化祭でキッチンカーを使って、昼食時に販売した。また、敬老会では、自分たちの取組をプレゼンし、「ほたるプリン」を振る舞ったところ、参加した高齢者の方々に大好評だった。活動のまとめとして、オリジナルの郷土料理と今回発案したコラボメニューのレシピ本を作成した。

<自然チームプロジェクト>

「地域のお悩み相談会」で、ホタルの里である安居地区の豊かな自然を継承していくことにも課題があることを知った。そこで、安居公民館と協力して未更毛川の水質・生き物調査を実施し、安居地区の自然環境について理解を深めた。その後、「安居の里を守る会」が管理するビオトープで、生き物調査を夏と秋の2回行い、生息する昆虫や植物をまとめた。さらに、ビオトープに生息する生き物の「デジタル図鑑」を作成し、地域の子どもたちが自然学習を行う際に役立てられるように工夫した。

<オシッサマグループ>

昨年度の3年生が福井県無形民俗文化財「オシッサマのお渡し」で企画した「行灯プロジェクト」を今年も継続してほしいという地域住民の想いを受け、新たに10個の行灯を制作した。地域の夏祭り「轟祭」では、参加者に火袋へ感謝のメッセージを書いてもらうことで、地域とともに作る行灯にした。神社の階段に並べた行灯は幻想的な光で祭りを彩り、訪れた人々に感動を与えた。開催者からは「行灯を見るために祭りに来てくれた方も多かった」との声をいただき、地域の伝統文化を未来へつなぐ取組として高く評価された。

<轟祭プロジェクト>

轟祭を子どもたちを楽しんでもらうため、子ども向けのスタンプラリー企画を発案した。代表生徒3名が地域主催の轟祭実行委員会に参加し、企画をプレゼンした。中学生の発案に実行委員の方々は心を動かされ、費用や場所を惜しみなく提供してくれた。当日は幼児から小学生まで多くの子どもたちが参加し、大きな賑わいとなった。

他にも、轟祭で行われる民謡踊りへの参加者が少ないという課題を解決するため、生徒たちは主体的に夜間の民謡教室に何度も参加し、民謡踊りの楽しさを体感した。その楽しさを、生徒が中心となって祭りに来た多くの方々に広げた。民謡教室の顧問は、「今までにない盛り上がりを楽しみ思い出をつくることができた」と日刊県民福井に投稿した。

11月の公開研究会では、国内外からの来校者に向けて日本語と英語で「校舎案内ツアー」を行い、日頃の学校での深い学びを主体的に発信した。これまでのプロジェクト学習から得られた「幸せ」についての学びは、My Learning（本校が大切にしている自分の学びを振り返り、生き方を探る活動）や、ACS（安居コミュニティセッション：安居をより良くするために何ができるかを考える異学年ラウンドテーブル）、卒業論文で発表する。

これらのプロジェクトは単学年で行われているわけではなく、3学年それぞれのプロジェクトが結びついており、未来を見据えた持続可能な取組になるように生徒とともにカリキュラムデザインを行っている。

3. 年間活動実績（12月以降の予定を含む）

- ・ 4月 地域のお悩み相談会を実施
- ・ 5月～ 地域の課題に応じて3つのチームを立ち上げ、自分たちにできることを考えて、地
7月 域全体を幸せにするための企画を立案
- ・ 8月 郷土料理を学ぶ会、福地鶏コラボメニュー開発を企画
未更毛川の生き物調査、ビオトープの生き物調査を実施
轟祭りスタンプラリープロジェクトを実施
轟祭り民謡プロジェクトを実施
- ・ 9月 文化祭で郷土料理コラボメニューを販売
敬老会で学びをプレゼンし、「ほたるプリン」を披露
- ・ 10月 オシッサマのお渡しで行灯プロジェクトを実施
- ・ 11月 公開研究会で第1回 My Learning、来校者に対し校舎案内ツアーを実施
郷土料理やコラボメニューのレシピ本を作成
ビオトープに生息する生き物デジタル図鑑を作成
- ・ 12月 ACSでこれまでの学びを全校に発表
3月 第2回 My Learning、卒業論文「わたしの幸せ」を発表